

京都・平安京穀倉院跡

器・轍の羽口・埴堀（取鍋）・木炭片・焼土とともに出土している。

二 一九九九年度の調査

所在地 京都市中京区西ノ京梅尾町・星池町

調査期間 一 一九九八年（平10）二月～一九九九年三月

二 一九九九年七月～一〇月

発掘機関 関西文化財調査会

4 調査担当者 吉川義彦

5 遺跡の種類 都城跡

6 遺跡の年代 九世紀～一九世紀

7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

一 一九九八年度の調査



(147)×(25)×2 081

平安京朱雀大路及び右京
三条一坊二町を含む調査で

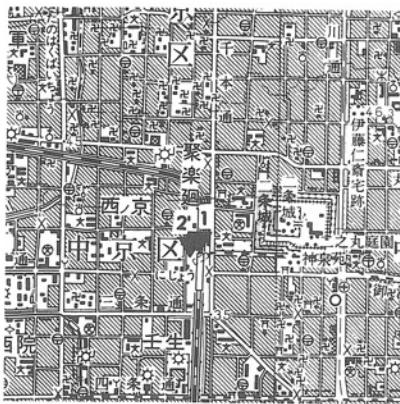
ある。右京三条一坊二町は、
穀倉院推定地にあたつてい
る。この調査区では朱雀大
路の路面・西側溝、穀倉院
東築地の西側溝を検出した。
木簡は、東築地西側溝の埋
土中から、九世紀前半の土

真西に相当する。九世紀の井戸・土坑、江戸時代の土坑を検出した。
木簡は、一八～一九世紀前半の土器・陶磁器を伴う土坑より、合
計三点出土した。ここでは、そのうちの主なものを紹介する。ま
た墨書ではないが、「□吉」、方形枠に「□合」の焼印がある木製品
も出土している。

8 木簡の釈文・内容

一 一九九八年度の調査

木簡の年代は、共伴の土器から九世紀前半と推定される。同時に
轍の羽口・埴堀・木炭・焼土が出土するので、木簡の「長上工」は
鋳造に従事した可能性が高い。穀倉院の手工業部門としては京城の
「造道橋料」があるが、その成立は寛平四年（八九二）、あるいは貞
觀七年（八七五）～延喜一四年（九一四）と推測される（山本信吉
「穀倉院の機能と職員」「平安王朝」有精堂一九七六年・井山温子「穀
倉院の財政機能とその意義」「史泉」七四一九九一年）。したがって、



（京都西北部・京都東北部）

(1)の京都町奉行所は東西両奉行所があるが、西町奉行所は現在の中京区西ノ京北聖町、東町奉行所は職司町に所在し、ともに調査地の東側の間近にあたる。また、西町奉行所の与力・同心屋敷が西町奉行所に南隣し（職司町）、さらにその南に東町奉行所の与力・同心屋敷があった（南聖町・勧学院町）。東西の町奉行所にそれぞれ与力二〇人・同心五〇人が所属する。木簡の人名のうち、飯室という姓は、京都西町奉行所与力に確認することができる。しかし、「上□_{浜カ}」ほかの姓をもつ与力は、在任していない（『翁草』巻六二〔「日本隨筆

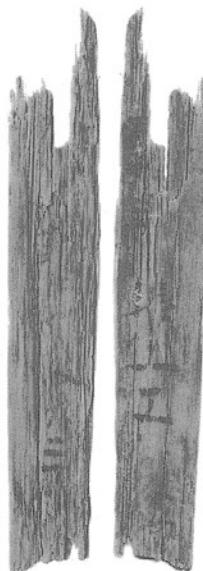
大成』第三期二〇）、『京都覺書』「日本都市生活史料集成」一、三都編I）。したがってこれらの人物は京都西町奉行所与力とは考え難い。しかし、「御用」とある下に記されていることから推して、町奉行所と何らかの関わりのある者であると思われる。また、これ以外の木簡は町奉行所との関連は認められない。

木簡の解読は宇佐美英機氏、有坂道子氏、西山良平が行なった。画像は赤外線スキャナーを使用し、入力は宮原健吾氏に依頼した。

（1-7 吉川義彦 8 西山良平（京都大学）



二(1)



一(1)



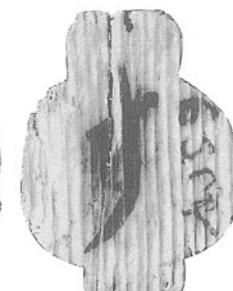
二(2)



二(3)



二(4)



（いずれも赤外線画像）